



手塚治虫の漫画で知った酒船石。意匠も場所も謎だらけ



珈琲山居お勧めのほり場。香り歯ざわりよし



すし善名物ちらし寿司。卵に覆われたたつぶりの海鮮が美味



朗報。祇園白川の餃子歩兵が恵比寿にも進出

ない。
初日は「京の食手帖」で取材した新町三条にあるすし善のちらし寿司と伏見のお酒を買い込み夕飯にした。錦糸卵の下には、鮭や鯛、たこ、穴子が隠れ、酒の肴にも最高だ。
二日目。お茶の稽古後に訪れたのは大宮商店街の蕎麦店、ほり場。日中通して開いている蕎麦屋は、時短営業下の昼呑みには欠かせない、頼もしい味方だ。
なにせ自粛効果で、気になるのは増え続ける体重。この慢性運動不足を補うには三密を避ける遠足が一番だ。大阪、奈良、神戸など、京都から足を伸ばせる場所は多いが、遠足ならオススメは奈良明日香村。石舞台と酒船石をめぐるハイキングは自粛疲れを解消してくれた。
とはいえ1日2食では、おやつはマスト。帰り際、連れ合いが好きな京都駅の宝泉で甘味をいただく。これじゃ元の木阿弥か。



暮らす旅 京都 京都からワンデイトリップ

文・写真／松岡伸吾(暮らす旅舎)

奈良県明日香村にある石舞台古墳。蘇我馬子の墓とかが

緊急事態宣言は解除されたものの、増え続けた感染者。しかし周囲にも知り合いにも感染者はなく、昨年は超過死亡もなかったという。深刻な欧米とはまるで違う状況なのに、首都圏では飲食店の時短制限は続き、高齢者施設のクラスターや医療崩壊の危機が叫ばれる。会見でステイホームを訴える首長の願いと裏腹に、多くの人が街に集う。
総選挙を睨んで、株価の維持とオリンピック開催を目指す政権の意図は透けて見えるが、政策に翻弄される飲食業や観光業のこれほどの苦境は、戦後初めてではないか。悲惨なことに大きく増えたのは職を失った女性の自殺者。これこそ、まさに緊急事態だ。
京都は一足早く緊急事態が解除され、時短要請もなくなったが、訪れた春先の京都は大違いだった。お酒は7時ラストオーダーとなれば、5時には店に入りたい。それが叶わないなら宿でお弁当しかない。